

2 年	生活	「えがおのひみつ たんけんたい」 28時間	概要	少人数グループ（3～6人）	適 ○
手 立 て	・付箋や短冊の活用 一人一人の思いや願いを表現しやすい手段として活用する。 ・ICTの活用 具体的に、お店の写真を撮ったり、紹介したりする手段に活用する。 ・少人数での話し合い活動 一人一人の気づきや思いをグループや全体で共有し、みんなで高めていく。 ・アイデアボックスの活用 グループで話し合い、採用されなかったインタビューの内容を、児童の願いを無駄にしないために、各グループの箱（アイデアボックス）に入れて、今後の活動にも生かせるようにする。 ・行きたいお店の希望を第1～3希望まで取り、担任がバランス配置した。		児童の様子	・個人個人の思いや願いを意欲的に表現していた。 ・ICT（写真）を活用することで、より具体的にお店の工夫や努力に気付くことができた。また、発表時に見せる手段としても全員が注目していた。 ・ワークシートや短冊を活用することで、話し合いが焦点化していた。 ・たくさんの意見を集約する中で、どうしても採用されない意見も出てくる。アイデアボックスのしかけは有効だったかが、今後の活動には生かせなかった。しかし、生かすことが目的ではないので、手段として活用は大事だった。 ・アイデアボックスを用いることで、グループ内で取捨選択がスムーズになり、C層も複数の意見を考えることができた。	
成 果	・探検への関心と期待感を持ち、調べたいことや聞いてみたいことを考えることができた。 ・友達と楽しく考えたり、話し合いに参加したりすることができた。		課題	・まとめる力に個人差がある。1組では、模造紙にそれぞれが担当を決めてまとめた。今回、全体のまとめ方を統一したことで、多様な方法（広がり）を経験させることができなかった。 ・グループ分けは、能力のバランス配分も必要。	